

*イントロ

- ・自己紹介
- ・2000年6月26日三宅島HP掲示板と「ひとりごと」
IT時代の最先端現象、
新しいジャーナリズムの形
その後、ブログの登場、これについては後で…
- ・災害情報とのかかわり
南紀体験 1973(S48) (日本沈没、地震予知黎明・揺籃期、石油ショックの年)
→予知情報の社会的影響・意味、メディアと災害情報
阪神大震災、マルチメディア時代の入り口、
→デジタル時代のメディアと災害情報

1、阪神大震災 (1995)

- * その社会的・歴史的 position
・大都市社会を直撃
・マルチメディア時代の入り口 Cf. マルチメディア元年・・・1994
・NPO, NGO、ボランティア元年
・多文化共生社会
- * マルチメディア時代の入り口
各種マルチメディアが登場、その特徴、機能、役割
パソコン通信の時代・・・ニフティの掲示板・会議室
情報融通(マスコミ他から転記)、マスコミの情報源
- * その後・・・ウィンドウズ'95、パソコン通信からインターネットへ
安否情報をめぐる動き→→171
→→情報の出し方、流通の変化
- * 多文化共生社会 (マイノリティ) とコミュニティFM
FM神戸、(FMもりぐち) (災害FM)
FMわいわい (FMサラン、FMヨボセヨ)

2、有珠山噴火 (2000)

20年前の噴火と比べて格段に情報が増えた。
有珠山ネット・・・インターネットがマスコミになった
携帯普及 (iモード・・・1999.2)

3、三宅島噴火 (2000)

ひとりごと掲示板・・・抜き刷り参照
インターネット上に新しいジャーナリズムが出現した。
ジャーナリズムとは・・・
市民と学者・研究者、専門家、関係者の情報広場
マスコミとは違った災害情報の空間、

4、南関東地震予測情報

(抜き刷り、またはその抄録、あるいはグラフのコピー)

2003年9月16.17±日、M7.2±0.5、南関東に地震

グレー情報？ 非科学的な予測情報との批判

この情報がどう流れたのか

インターネット情報の比重の大きさ

その情報接触態度、対応行動

企業の対応、父親から流れる情報の意味、リスク管理

グレー情報が様々なメディアを通じて氾濫し、それに対応している時代

国の地震予知計画、確率情報、これも一種のグレー情報

5、新潟県中越地震と地域情報

*ケーブルテレビ・NCTとコミュニティFM・ながおか(災害情報FM)

・NCT

新潟水害の時から町並み移動中継、地震災害時災害対策本部からの生中継

ケーブルテレビ局間の支援体制

・FMながおか

外国人向け放送…FMわいわいの支援

見えるラジオ・パパラビジョン

(眼の不自由な人向けの放送)

*災害時の地域情報

「災害はいつも新しい顔をして現れる」

…自然現象としてだけでなく地域・時代・社会を反映

地域情報の例…ケーブルテレビとコミュニティFMの連携

・湘南ケーブルとFMナパサ

1997年以來月1回、市民によるTR同時防災生放送

FMは予備送信所も

・キャッチネットワーク(刈谷・安城・高浜・知立・碧南・西尾市他)

コミュニティFM設立、災害放送マニュアル整備

6、今後とまとめ

*ブロードバンドとデジタル

放送と通信の融合、デジタル放送

*インターネット

掲示板とブログ…ジャーナリズムの視点から

*まとめ

災害情報は、多種多様で膨大な量、

デジタル・ブロードバンド時代、情報はその間を融通無碍に動き回る

各種メディアがその特性にあった方法で、分担、融通、そして批判しあいながら

情報を出していくことになる。